



理念

- 1、乳幼児期の子どもの最善の利益を守る保育園
- 2、親・地域の多様な子育ての要求を受け止め、
助ける保育園
- 3、すべての子どもたちが健やかに育ち、すべての
ものの生命を大切にし、平和な社会をめざす保育園

めざす子ども像

- 1、心身ともに健康な子ども
- 2、自分の要求を持ち、豊かに表現し
実現しようとする子ども
- 3、自分を大切にし、仲間を大切にする子ども

保育目標

- 1、子どもの人格を尊重し、子どもの全面発達を保障する
- 2、保護者と子育てを共同する
- 3、保育園の社会的役割を果たす

いちばん大切なこと

ドロシー・ロー・ノルト

●子どもは親から、親は子どもから学ぶ

子どもは親をお手本としてそだちます。

子どもは生まれた瞬間から、それどころかうまれる前できえ、私たち親から学びとっているのです。子どもの手本である以上、最良の自分を見せてあげたいものです。そうできるよう、努力をしなくてはなりません。

わたしたち親は、子どもから学ぶことができます。

それはたいへんすばらしい体験です。

わたしはいつも親の愛は三つの柱で支えられているとお話しています。

子どもを受け入れ、認め、思いやるという三つの柱です。自分を無条件に受け入れ、いいところを認め、深く思ってくれる親の愛に育まれて、子どもは、自分が好きになり、人を愛することのできる人間になつていきます。

そして、親も又、子どもを愛し、子どもに学ぶなかで、人生の喜びを知るのです。

思慮深く子どもを見つめましょう。子どもはじつにいろいろなことをわたしたち親に教えてくれるものです。子どもはわたしたち親に、人生とは何か、幸福とは何かを誰よりも深く教えてくれるのです。



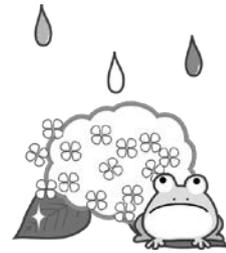
保育園の庭には、ザクロ、梅、いちじく、杏の木があります。今年は梅の木にたくさんの実がなり、幼児さんは採った実を事務所に届けてくれます。子どもの届け方もいろいろで、嬉しそうにすぐに手渡す子もいれば、手渡すのを渋る子もいます。子どもたちの小さな手から受け取るとき幸せを感じます。

集めた梅の実を主任が、炊飯器で梅ジュースを作る過程を子どもたちに見せました。ささいな体験から、子どもによっては、これから自然に興味を持つ子、果物や木に関心を持つ子もでてくるかもしれません。一つの体験から子どもの可能性がどんなふうに広がるのか？

今年度、子どもの生きる力をはぐくむということで、子どもの意欲、関心、興味を育てることが幼児期に最も大切であるということから、子どもの遊んでいる様子を改めて学習することにしました。職員会議では大学の専門の先生をお呼びして、職員の記録した子どもの日常から、関わり方を学ぶ機会にしています。

6月の予定

6月	2日(木)	眼科検診	
	3日(金)	あひる組懇談会	職員会議
	9日(木)	耳鼻科検診	健康診断
	16日(木)	身体測定	
	17日(金)	ひよこ組懇談会	
	23日(木)	健康診断	
	24日(金)	職員会議	
	29日(水)	体験保育	
	30日(木)	歯科検診	



☆ 保育園では作り方や経過を見てもらいましたが、完全に火が通っていないので、食中毒の心配がありますのでジュースの提供はできませんでした。ご家庭でお子さんといっしょにつくれるといいですね。

梅ジュースの作り方

- ①青梅を洗い、おへそを竹串などで取り除く
- ②炊飯器に青梅と氷砂糖を交互に並べる（梅1kgに氷砂糖700gくらい）
- ③保温にする
- ④12時間くらいして氷砂糖が溶けて、梅がシワシワになったらできあがり（梅がたくさんシワシワになった方がよい）
- ⑤梅エキスは、水や炭酸でお好みに割って飲む
- ⑥残った梅は種を取って煮詰めるとジャムになる（砂糖をたす）